

平成31年

季刊

春季号

Vol.69

# 亞東



社会見学（氷川丸にて）



一般社団法人日本台湾親善協会  
Japan-Taiwan Friendship Association



## 一般社団法人日本台湾親善協会の概要

名称 一般社団法人日本台湾親善協会

(英文名) Japan-Taiwan Friendship Association)

事務所 東京都千代田区平河町二―七―四 砂防会館別館

二階

(必要に応じ支部を設ける)

目的 会員相互の親睦並びに民主主義と自由を信条と

する日本と台湾との相互理解と交流を促進して

日本と台湾との関係強化と発展に寄与する。

## 事業

① 日本と台湾との政治、経済、文化に関する調査研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版

② 日本と台湾との文化、芸術の相互の紹介

③ 日本と台湾との経済協力の推進に必要な情報の収集及び斡旋

④ 我が国に在住する台湾関係者及び在日留学生に対する交流事業

⑤ その他本会の目的を達成するために必要な事業

## 日本台湾親善協会の変遷

社団法人日本台湾親善協会は、民主主義と自由経済を信条とするアジア人同志の交流を深める目的で一九四九年 東京に設立された『華南倶楽部』が発祥です。第二次世界大戦後の激動の時代でしたが、会員はひたすらアジアの平和と繁栄を希求し、友愛と信義を基調とした国際関係の樹立に努力を続けて参りました。その結果、この趣旨に賛同する有識者が次第に増加し、活発な活動とともに組織拡大の一途を辿りましたが、一九七二年の日中共同声明は、アジアの政治情勢のみならず、在日アジア人の日常にも大きな変化をもたらしました。

その前年即ち一九七一年、千葉三郎先生(衆議院議員)は、倶楽部を強化発展させる必要を痛感し、岸信介先生、福田赳夫先生、灘尾弘吉先生らと諮り、留日華僑有志の方々が協力され、自ら発起人となり同年五月二十九日外務省認可『社団法人亜東親善協会』を設立致しました。

千葉先生の引退後、原文兵衛先生が参議院議長の要職のまま会長に就任され、その後、永年衆議院で活躍された藤尾正行先生が会長を引き継がれ、二一世紀の幕開けとともに玉澤徳一郎先生が会長を務められました。

二〇一二年一月六日「一般社団法人及び一般財団法人の認定等に関する法律」の施行に伴い一般社団法人としての認可申請が受理され、二〇一三年四月一日より一般社団法人として再スタートいたしました。

日本を含むアジア諸国は、世界の経済に大きな影響を与える程に成長しました。かかる情勢の中、二〇一二年五月、元内閣総理大臣安倍晋三先生を会長にお迎え致しました。同年一月安倍政権が発足、会長の内閣総理大臣復帰に伴い退任され、会長代行の大江康弘参議院議員が就任、二〇一八年五月からは元衆議院副議長の衛藤征士郎先生が会長に就任されました。

日本と台湾との友好交流を発展させ関係の強化を図り、アジアの繁栄と平和に貢献するため会員一同、新会長のもと、叡智を結集し努力を続けています。

季刊「亜東」平成三十一年 春季号・目次

創立七〇周年 新春互礼会を開催	五頁
「台湾はどこへ向かうのか」	六頁
平成三十一年度社会見学会	十三頁
大学生との社会見学会に参加して	十四頁
社会見学を通して	十五頁
会員関係者からの投稿	十六頁
「地方から願う日台の絆」	十七頁
事務局だより	

平成30年5月9日

## 役員名簿

名誉会長	玉澤徳一郎								
会長	衛藤征士郎								
副会長	張 建国	張 碧華							
	多 忠和	並木 正芳							
専務理事	赤松 則宏								
業務執行理事									
	並木 正芳	藤山 雅康							
	柴田 徳文	笹岡 恭亮							
理事 20名									
	衛藤征士郎	張 建国	張 碧華	多 忠和	並木 正芳				
	赤松 則宏	崎谷 秀彦	藤山 雅康	小松 省二	益山 茂				
	伊野 雅晴	柴田 徳文	笹岡 恭亮	森田 康郎	岩城 光英				
	平野 達男	榎本 有里	金子万寿夫	富田 家彰					
監事 2名		李 ハロルド	鈴木 慶一						
事務局		崎谷 秀彦							
		李 孔晔							

一般社団法人 日本台湾親善協会

## 創立七〇周年 新春互礼会を開催

台北駐日経済文化代表処の張仁久・副代表は二月二十一日、「一般社団法人 日本台湾親善協会」（以下、日本台湾親善協会）が東京・永田町の憲政記念館で開いた「創立七〇周年記念新春互礼会」に出席された。

張副代表は、今年初め中国当局が発表した談話の中で台湾に対し、「一国二制度」による統一、武力も辞さずなどと言及したことについて、「中華民国（台湾）は決してそういつ

た脅迫には屈しない」と強調した。

その上で、「今後も日本や米国なども理念を同じくする国々と共に手を携えて、台湾の国際機関への参加および国際社会への貢献をさらに強化していきたい」と述べ、出席者らに理解と支持を呼びかけた。



日本台湾親善協会会長の衛藤征士郎・衆議院議員は、出席者らによる同協会への確固たる支持に対し、敬意と感謝の意を表した。山本順三・国家公安委員長／国土強靱化／防災担当大臣はあいさつの中で、台湾と日本は共に災害が多いことから、防災面でも互いに協力し合い、良い関係を今以上に築いていきたい



いとのかえを表した。

この日、新春互礼会の前には、「公益財団法人 日本台湾交流協会」の谷崎泰明理事長が講師となり、「台湾はどこへ向かうのか」と題する講演会も開かれた。

《二〇一九年二月二十二日》

## 「台湾はどこへ向かうのか」

公益財団法人 日本台湾交流協会

理事長 谷崎 泰明

今年はいのしし年ということで、日本には「猪突猛進」という言葉があつて否定的な言葉ですが、大変元気があつていからこれで行きましょう、と話しておりました。年は明けまして一月に新年会がありまして私もご挨拶させていただいております。二〇一八年を漢字一文字で表すと日本は何かと申しますと、自然災害が多かったので「災」という字でした。台湾では「翻」変化するという意味の字が二〇一八年の漢字ですが、これをこじ付けて日本と台湾は協力すれば「災」を転じて福なすということが出来る」とスピーチしました。この「翻」という字を出していたのは国民党系の新聞であり、昨年十一月の地方選挙で民進党が負けたということと代表するものとして「翻」と書いたようです。

そんな中で迎えた本年ですが、今日はここで台湾がどのような方向に行くのかについて話していきたいと思えます。これは日本人も世界でも一番関心があることですが、結論を先に申し上げますと、先を見通すのはいろいろな要素があり非常に難しいですが、この問題についてどのように見ているかについて皆さんと取り組んでいきたいというのが演題の目的であります。

台湾の内政について、お手もとの資料の通り李登輝さんの後、政権交代となりましたが、三年前の選挙で勝つて現在は民進党の蔡英文総統となります。

立法院では二〇一六年前回の選挙の結果、一一三議席のうち六八議席を押しさえ大変安定した国会であります。そういう状況の中で行われた昨年の地方選挙は、来年一月にあるであろう次期総統選挙と国会選挙を占うものとして大変注目されておりましたが、その結果は国民党が大躍進するという、大

変衝撃的なものであります。具体的に二十二市のうち、民進党は十三から六となり七減、国民党は六から十五となり九増で、これは民進党もかなり苦戦すると思っておりますが、ここまで大敗するとは予想外の結果でありました。おそらく国民党もこんなに勝つとは思っていませんかったと思いま



す。その結果、蔡英文さんは引き続き総統はつづけるものの選挙の責任を取って党主席を辞任しております。この選挙結果は今後に大きな影響を及ぼすと言われております。

第一の影響は、得票率です。今回の選挙では、民進党は47・3%から39・2%、国民党は40・7%から48・8%となり、国民党との間に10%近い差が出てしまいました。この10%の差が今後の総統選挙にももちろん影響しますが、今回の国会選挙では大きな影響があります。国会選挙では日本同様、比例代表もあり、党の得票差が比例代表選に直接影響するということがありますので、民進党が国会選挙で勝ち多数を占める割合はほとんどないというのは専門家の見方です。仮に蔡英文総統が再選したとしても議会対策で相当苦勞するのが予想されます。

地方選挙でなぜ負けたのかについては、民進党内でも敗北原因を分析して総括すべきと言われていますが、私の記憶では総括を行っていないようですので（総括したら大変怖い結果が出るんじゃないかと思っておりますが。）台湾における政治分析の専門家や日本の台湾に詳しい方が分析したものを私がまとめて申し上げます。

敗因の一番の大きな原因は、もともと蔡英文総統と、その他政権を担った方の人気が高揚しなかったこととありますが、それ以上に統一地方選挙の戦略を間違えたというのが専門家の分析でございます。何を間違えたかと言いますと、本

来地方選挙には地方選挙なりの投票者への訴え方があるのですが、蔡英文総統は国政選挙と同じように現在の蔡英文に対する信任投票であることを前面に打ち出したのであります。もし勝てばこれは現政権が信任されたと説明し、負ければこれは地方の声を吸い上げる地方選挙の結果であると説明すれば良かったが、現政権に対するYESかNOかで済ましたために、もともと政権に対する満足度が高くなかった地方でもその意向に従って投票したためにこのような結果になってしまったというのが、多くの専門家の指摘している部分であります。

第二の影響である民進党政権支持率については、調査機関により差はありますが総じて不満足が満足をかなり上回っております。

次に次期選挙に向けて誰を候補にするかについて申し上げますと、民進党は蔡英文総統と、前行政院長の頼清徳さんは大変人気がありますので総統候補として出る可能性があると言われていましたが、蔡英文総統が正式に出馬を表明したため頼清徳さんが出ると民進党の票が割れてしまい混乱が予想され、また本人もそれを望んでいないため今回の選挙ではなく、おそらく二〇二四年の選挙に出馬するのではないかと思っております。

ちなみに頼清徳さんは日本との関係が深く、民進党の中でも独立派と言われている方です。

一方国民党の中は、今回の選挙で勝ったがゆえに次期総統選挙に手を挙げる人が増えて混沌としている状況のようでございます。来年の国民党の候補者は、現在の党主席である呉敦義さん、前立法院長の王金平さん、最後に前回の総統選で蔡英文さんに負けた朱立倫さんの三人の可能性が高いとされていますが、大方の専門家は中でも朱立倫さんと呉敦義さんが出馬の可能性が高いと言われております。

総統選の立候補を決める方法としては、世論調査の結果を基に勝てる候補を決めるか、現在の国民党内の国会議員の票にウエイトを置いて国民人気も加味して決めた方がいいなどそれぞれ思惑がありフォーミュラーが決まっていないう状況のようです。その結果一年後の候補者予測はどうなるのかと言いますと、先ほど五名に加え無所属であります現台北市長である柯文哲さんが入っておりますが、柯文哲さんが圧倒的に支持率が高いです。では国民党と民進党を比較した場合にどうなるかと言いますと、民進党の蔡英文さんが勝つ可能性があるのは国民党から呉敦義さんが出た場合のみとなっております。

では柯文哲さんがこれだけ人気があるのでどうかと言いますと、才気煥発と言いますか非常に頭の回転も速く話が早いので国民の人気がありますが、柯文哲さんが無所属で出て当選の可能性は非常に少ないとされています。今回の市長選は二期目ですが相当苦戦してようやく勝ったということでは

文哲さんの党としての票集めは通用しないものと一般的には思われてしまつて、総統選挙においてそれだけの票集めはないのではないかと、したがって勝つ可能性は少ないんじゃないかとこのころです。

では柯文哲さんと組んで国民党か民進党が出ればこれだけの人気がありますからそれだけで有利ですけども、蔡英文さんと柯文哲さんは今恐らく犬猿の仲で、もともと柯文哲さんは民進党をサポートし自分が出る時は民進党からサポートを受けて市長になっている。ところが今回はいろいろな経緯があつて独自候補を民進党が出すことになり、柯文哲さんかすれば民進党はあまり信用できない。国民党との関係は、朱さんが出るか呉さんが出るかで多少変化はありますけれども、もともと柯文哲さんにとって国民党というのは関係がないわけです。したがって支持率を集めていますがこれだけの（資料赤字部分の）支持率が活きてくる可能性はないということですから、国民党と民進党の戦いになるんじゃないかと思っております。

これから先一年弱ありますので、まだ始まったばかりですのでどうなるか分かりません。台湾情勢専門の日本人の方によると、台湾の選挙分析をするときにいくつかの経験則があり、台湾の内政を見るうえで気を付けなければいけないのが、水の流れのように変化する「民意」という言葉があるくらい、非常に変動しやすい民意であるということでありま



す。恐らく支持政党がない、浮動票や中間票が非常に多い水の流れのように変化するとい

うもの。もう一つは「台湾は裏切らない」ということで、これはどういうことかというのと、若干最初の方

は退屈そうに見える選挙ですけど、終盤には必ず劇的な変化がある政治であると言われて

いますので、さきに申し上げた二つのことから次の総統選の予測はなかなか難しいということです。

話は戻りますが、今回の地方選挙で劇的な変化が起きたのは昨年の九月に民進党が牙城にしていた高雄で国民党の韓さんが勝ったんですね。昨年九月までは泡沫候補と思われていた韓さんが見事に数か月間の間で民進党を逆転するのみなら

ず、10%近くの差をつけて勝ったわけですが、これはまさに浮動票の多い民意の現れかと思えます。直接選挙が行われる台湾の総統選挙においてはこの票数というのが絶えず変化するというところでは

ここで中国との関係であります。今回の選挙について中国はやはり対台湾政策について自信を深めたのではないかと思います。民進党政権になってから中国は台湾に圧力をかけていて、それは民進党政権が党の綱領として独立を持っているからであります。蔡英文さんは総統になる前から、台湾のトップに立つものとして中国との関係はある意味ではまねをしなければいけない、しかし民進党の代表なので独立という風にするわけでもなく、統一するわけでもない「現状維持」を尊重したわけです。しかし中国は不十分として圧力をかけてきているわけであります。具体的には一九九二年にコンセンサスを取った内容を認める事が大事だと中国側は民進党政権に迫っているわけです。その中で法的レベルでの接触は行われておらず、台湾に送る観光客もそちらの中央省がやっている。その中で結果的には民進党が大きく後退したというのは、中国の対台湾政策が正しかったんだと思われてもおかしくはないと思えます。そしてこれからどうなるかということ、国民党が今回政権を取ったところについては観光客が増えるとか、投資が増えるといったようなポジティブなサインを送ってくるだろうと思えます。

その中で注目されているのが「台湾同胞に告ぐ書」が発表されて四〇周年を記念する二〇一九年一月二日に習近平国家主席が台湾について重要講話を発表したことであり、今回の講話の中身というのは、「一国二制度」と中国が台湾について言ってきたことをまとめた様なものであり、その中には台湾側との民主的協議の呼びかけや柔軟な前向きな話もあり武力の使用も放棄しないという項目もありますが、これは台湾独立の分裂分子に対して力の行使も辞さないというものであって新しい話ではないので厳しいメッセージではないと捉えています。ただ台湾側の蔡英文さんが九二年コンセンサスや一国二制度を否定して断固反発するメッセージを直ちに出したことで支持率が一気に上がったと言われております。台湾の総統以下現政権は習近平さんの一国二制度について具体的な平和的同意のためのプロセスがはっきり書かれていることに深く反応したのだと想像できます。

今後どうなっていくかという点で非常に重要なメーターになるのが「台湾住民のアイデンティティの変化」というデータでございます。これは一九九一年から世論調査を民主主義的に行えるようになったわけですが、これは三つの選択肢の中から選ぶものですが非常に重要なデータだと思います。台湾の方々に「自分は台湾人だ」、自分は中国人だ、台湾人でもあり中国人でもある、の中から自分はどれだと思ってお聞きしたもので、今注目しているのが二〇一六年から状況

が変化していることで、二〇一六年に「台湾人だ」と答えた人が80%を超えたのに対し、10%近く下がって代わりに「台湾人でもあり中国人でもある」と答えた人が4%まで上がっています。これについて分析を急いでいますが、原因の一つはもともと高すぎたのだと思います。前国民党馬英九政権の中国との関係が心配だという反発として出てきたため、現在の民進党政権に代わって心配がなくなつて本来の70%台に落ち着いてきたのだと思います。

もう一つは、若い世代における中国に対する拒否感が薄くなつてきているのではないかとことです。私の周りでも三〇〜四〇代は中国人という意識のデータが増えてきているように思います。その表れとして台湾住民の中国大陆への印象（データ）を見ると中国人民への良い印象も上がっており、中国政府そのものへは中央政権への印象も上がっておりますが、二〇一七年から二〇一八年はかなり下がっているのは、中国政府による民進党政権への締め付けのかなり影響が出ているのかなと思います。台湾人の意識の中に中国に対する見方が微妙に変化しつつあるのが見てわかります。今後の方向についても見ていく必要があると思います。

将来自分達の国をどういう国にすべきかということについては、台湾住民の対中観の変化（データ）を見てみると二〇一〇年は「独立すべきだ」という意見が31%で二〇一七年には24%に減っています。一方で「統一すべき」は

二〇一〇年には14%、二〇一七年には20%になっておりますので、この変化はかなり大きいのではないかと私自身は思っております。したがって今後中国との間で台湾の変化を押さえるべきなのは、中国そのものが特に若い世代が微妙に変化していった台湾に対してどのように接していくか、北風的なアプローチをしていった場合に台湾の中での中国に対する意識はむしろ逆効果になります。中国が台湾に対して対応施策的なチャームオフエンスになっていけば、統一すべきだのパーセントが上がっていき、独立すべきだという意見はさらに下がっていくことがあると思います。ただ、現状維持は今でも大多数の気持ちであります。

台湾の経済構造について今後どうなるのかについてですが、台湾経済は今三つの特色があります。一つ目は台湾のGDPの半数が輸出である。二つ目は輸出のほとんどがIT関連である。三つ目は輸出入の相手が中国と香港が40%を占めている。台湾では中国に対するこの経済依存度がこれ以上進むのは望ましくないという政策がありますが、経済の流れがどのように動くかは違う問題であり経済依存度がより高まっていくのではないかと私自身は思っております。

そのうちの一つは、中国以外の東南アジア等に関係を強めていこうという施策で、先ほど申し上げた三つの欠点に対して打ち出していますがこれはあまりうまくいっていないと思っております。そのような中で台湾は必死に経済施策を行っ

ていますが、台湾の経済社会構造の中で大きな問題は中国に依存していることで、日本よりも遙かに急速に高齢化が進んでいる社会を考えますと、台湾の経済そのものも弱っていく可能性があるのかなと思います。

今の台湾からのトランプ政権の見方について、一つはトランプ政権が行っているように中国に国際的な秩序の中に組み込めようとする圧力は長期的に見て賛成ですが、その結果中国経済が減勢し台湾経済にもろに影響するために短期的には非常に困ったことになるというのが台湾の状況であります。

いろいろ申し上げましたが最後に一言申しますと、我々は日本と台湾のことを分析することですが、協会としてやっていることは台湾が日本との関係をより発展させ台湾そのものが安定したものになっていくことが我々の最終施策であります。その中で非常に大事だと思っていることは、台湾は出来る限り国際社会の中心において、中国は台湾を国際社会から偏見視させないような政策を取っている、そのなかでひとつの課題としているのが、台湾側が望んでいるTPPについて日本側が当然分かったように振る舞っていくことが非常に大事な事じゃないかと思っております。今のは一つの例ですが、台湾が今後国際社会の中でどのようになっていくかのテストケースになり重要なことだと思えます。話は長くなりましたが以上となります。ぜひ覚えておいてください。(質疑応答)

Q. 日本にとって次期総統はどの方が望ましいか？

A. 非常に難しい質問ですね。台湾の皆さんが決める話ですので個人的な意見を述べるのは控えたいと思いますが、ただ面白いのは台湾と日本の間で三〇個以上の約束が出来たのが馬英九政権の時で、それはなぜかというところと中国との関係が馬英九政権の時は違ったので日本との関係は進めやすかったことがあります。民進党政権は馬英九政権よりも日本との関係を深くしたいと思つてると思います。中国との関係は緊張関係にあるので日本と比べて横やりが入りやすいということがあるので、どっちがいいかというのは比較しにくいのでなかなか難しいですね。

Q. 蔡英文さんは負ける可能性が高いのになぜ立候補するのか？過去に出馬した方（馬英九さんなど）が出ることはないのか？

A. 議会選挙について、民進党はかなり厳しいですが、総統選挙についてなぜ再選出馬をしたかというところ、民進党の中で蔡英文さんの代わりになる人がいないということなんです。地方選挙が行われたあと「蔡英文さん降ろし」が民進党の中でもありましたが、これは成功せず、民進党の党首が変わりましたが党首そのものが蔡英文さん再選支持派ですので党内の鎮圧は成功したと思います。ではなぜ出るかというところからないますが、習近平さんの講話の後から10%近く支持率が上がってますからこれから一〇ヶ月間で何がおこるか分からない

いです。それから柯文哲さんが出なかった場合その支持票は民進党に親和力があるのではないかと言われております。したがって蔡英文さんのところにかさ上げとなるかと思えます。国民党の馬英九さんにつきましては、現在でも影響力のある政治家であり、政治的な影響を残したいという思惑で意図的に出馬のうわさが流れているのではないかと思います。



## 平成三十一年度社会見学会

張建國

桜が七分咲きとなった平成三十一年三月二十七日、一般財団法人台湾協会との共催による社会貢献事業として、我が(二社) 日本台湾親善協会からは役員五名、(一財) 台湾協会からは株木常務理事をはじめとする役員三名が参加し、台北駐日経済文化代表処の黄冠超教育部長、李冠穎教育部主事のご参加を仰ぎ、台湾の在日留学生一〇名、日本の大学生・専門学校生一〇名を招き、

総勢三〇名にて、平成三十一年度の社会見学会を行いました。

午前一〇時に砂防会館前から大型バスにて、一路、横浜へ向けて出発。バスの座席も日本・台湾双方の学生の交流に配慮した席順とし、バスの中では、駐日代表処の黄部長より、台湾からの留学生と日本の学生との交流についての意義について



のお話をいただき、又、参加者の紹介など、和やかな雰囲気の中、午前十一時頃に、最初の目的地、キリンビール横浜工場(横浜市生麦)に到着、十二時二〇分より八〇分間、キリンビールの横浜工場の同社のブランド商品である一番搾りビールの製造工程について見学を行い、その後、工場内のレストランで昼食。日台学生の交流に配慮して座席を配し、和やかな雰囲気の中で会食と交流が行われました。昼食の後、第二の目的地である日本郵船歴史博物館(横浜市中区)と横浜山下公園埠頭に停泊している氷川丸を見学した。博物館、氷川

丸の見学に際し丁寧な案内解説をいただき、普段見ることのできない機関室や一等客室なども拝観することができました。たいへん和やかな雰囲気の中で、日本・台湾両国の学生達が、日本語・中国語を交え、楽しく、会話を深めることができた有意義な一日でした。



## 大学生との社会見学会に参加して

台湾協会理事 小椋和平

三月二十七日（水）、当協会と一般社団法人日本台湾親善協会の共催で開催した、日本と台湾の学生の交流を目的とした社会見学会に参加した。

本催しは、歴史的、産業的価値の高い施設を日台の学生がそれぞれの目線で見学して価値観を共有すると共に、台湾に造詣の深い協会関係者とも交流することで、世代間の親睦を目的することを目的に企画したものである。



なお今回の社会見学会には、十三年前に同様の趣旨で開催された社会見学会に参加した経験を持つ、台北 駐日経済文化代表処・黄冠超教育部長にも来賓として参加していただいた。

午前一〇時、快晴の空のもと、出発地点の平河町砂防会館に集合した台湾の留学生

一〇名、帝京大学と日本電子専門学校の学生六名、その他台湾協会と日本台湾親善協会関係者十三名、総勢二十九名はバスに乗り、一路最初の訪問先であるキリンビール横浜工場へ向かった。

生麦にある国産ビール発祥の地、キリン横浜工場では約一時間半にわたり製造工程を見学し、最後の試飲室で芳醇な香り漂う出来立てのビールを試飲した。また工場付設のレストランでの昼食会では、協会メンバーが学生たちのテーブルに同席して食事をとることで、世代間の交流を大いに深めることができた。

昼食後、横浜海岸通りにある日本郵船歴史博物館と山下公園に係留されている氷川丸を見学した。ここでは、かつて世界一の海運国家を目指して奮闘し、後に第二次世界大戦の戦禍に翻弄された海運業界の歴史を学ぶことができた。

天候にも恵まれた今回の見学会は、日台双方の学生たちに楽しい思い出となり、両国の絆をより深める機会になったのではなからうか。

最後に、本行事の企画、準備、同行で全面的にご協力いただいた日本台湾親善協会、台湾からの留学生を派遣して下さった台北駐日経済文化代表処教育部、日本側の学生を派遣して下さった日本電子専門学校、帝京大学の皆様に紙面を借りて感謝申し上げます。

## 社会見学を通して

帝京大学四年 切明佑真

今回私は、台湾協会、日本台湾親善協会が共催の社会見学に参加させていただきました。私は大学のゼミの先生に勧められて参加させていただきました。

私は大学では中国語を主に学んでいたもので、それを生かして会話する事、友人を作ることがとても楽しみで、積極的に中国語を用いて話そうと心がけました。

社会見学はキリンビール工場、郵船博物館、氷川丸の見学というプログラムで、台湾の同年代の方々と一緒に見学できることがとても楽しみでした。

集合してからビール工場までのバス中では緊張してあまり交流を深めることはできなかったですが、ビール工場でのツアーを進めていくうちに数名と打ち解けていきました。工場ツアーでは、ビールを作る過程やキリンのこだわりなどを知りました。ビールの試飲の際には台湾人の学生と一緒に乾杯し、ビールの味の違いや、工場ツアーの感想、お互いの学生生活や、国の事について話しました。ビールに対しての知識を深めてから飲む一杯は格別に美味しかったことを鮮明に覚えていきます。

それから郵船博物館に行きました。そこでは三菱との関係、戦時中の船の在り方や、昔はどんな種類の船舶があった

りなど、今まで知らなかった船のことについて知ることができました。

氷川丸では、横浜に停泊している経緯や戦時中の活躍、客室見学や動力部見学など、初めて見る事ばかりでもとても楽しかったです。船長さんの航海歴や経験談なども踏まえて話していただけで、ただ見学に来るだけでは知り得ない事も色々教えていただきました。私は地元が横浜なので氷川丸にとっても愛着があったのですが、今回色々なことが知れてより一層愛が深まりました。また、台湾人の学生の家が近所という事で一緒に帰りました。電車の中でも1時間ほど、お互いの事や国の事について語り合い、連絡先を交換して、またいつか遊ぼうと約束もしました。

話せなかった方もいらっしやった事がとても悔やまれます。もっと色々な人に話しかけ、交流を広めていけばよかったと後悔しています。

また、経験豊富な大人の方々ともお話できて、現在就職活動中の私の相談を聞いてくださったったり、私は商社希望だったので、商社マンとしての在り方などもご教授頂きました。

当初の目標であった、中国語交流、友人作りだけではなく、社会勉強にもなったとても有意義な活動でした、今回誘ってくださったゼミの先生、引率してくださった協会の方にはとても感謝しています。

今回は本当にありがとうございました。

## 会員関係者からの投稿

江戸初期に一介の貧しい僧でありながら仏教教典の全集である「一切経」を刊行した鉄眼禪師をお祭りする「三宝禪寺」の住職をされておられる吉里隆爾様から投稿がありました。ご紹介いたします。

### 「地方から願う日台の絆」

三宝禪寺 吉里隆爾

小納は亜東協会個人会員の家族です。当寺は仏教の百科辞典（一切経）を出版した鉄眼禪師の生家である熊本県宇城市の三宝禪寺です。

四年前、台湾国より六ヶ大学の歴史学研究会の教授の皆さま十数名が来寺されました。以来交友と絆を重ねてまいりました。特に一昨年の熊本地震の際には、早速被災状況をだしんされ、直ちに貴重な見舞金を台湾大学の陳教授、成功大学の陳教授（お二人は夫妻です）両先生より頂き心から感謝申し上げます。

両先生は、日本の大学院在学中貴協会より支援を受けられたとのこと。仏縁を感じました。

今般衛藤征士郎先生が貴協会長に御就任と聞きました。省みれば小納の先輩と同期が自衛隊駐屯地司令在職中に、先生

は地域と自衛隊との信頼関係の充実・強化に尽力を尽くされました。まさしく貴協会に最適任の会長であります。

当寺は九州の片田舎にありますが、貴協会の益々の発展とご活躍を祈念し、今回筆をとった次第です。合掌

三宝禪寺 吉里隆爾拜

## 事務所だより

令和元年度通常総会・講演会・懇親会の開催

日時… 令和元年五月十四日(火) 16時00分～20時

場所… ルポール麹町 2Fルビィ

## 新入会員のご紹介

平成三十年十一月～平成三十一年三月

法人会員 (株)経真代表取締役 浅倉伸治・佐伯印刷(株)代表取締役社長 平岩照正・

上北農業加工(株)代表取締役社長 成田正義・(有)サムタイム取締役 前川公秀

医療法人錦秀会理事長 藪本雅巳・

(株)ホームイングループメントひろせ取締役会長 廣瀬舜一

個人会員 松井尚之・間瀬雄大・茶谷克巳・蓑輪忠剛

季刊 **亜東** (アジアの架け橋) 平成31年 春季号 (No.69)

発行日 : 平成31年4月15日

発行所 : 一般社団法人日本台湾親善協会

発行人 : 衛藤征士郎

所在地 : 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5 砂防会館別館2階

Tel : 03-3261-6405 Fax : 03-3556-5770

H P : atousinzen@nifty.com

印刷 : ヨシダ印刷株式会社







## 台湾の翼 チャイナエアラインなら、 うまくいく。

日台の架け橋であるチャイナ エアラインは  
日本国内主要15空港から台湾へ最多の直行便を運航  
豊富なフライトネットワークから、最適なフライトスケジュールをご提案  
充実の法人プログラム  
フルサービス航空会社ならお仕事でのご利用も安心  
あなたのビジネスパートナーにチャイナ エアラインをお選びください



[www.china-airlines.com/jp/jp](http://www.china-airlines.com/jp/jp)